

C-up ワールド

2003年10月号

2003年9月の山行記録

自主山行

三ツ峠の岩場

9/6(土)~9/7(日)

参加者

伊藤幸雄・田口浩昭・山野昭人&美香・横川秀樹
計5名

コースの核心・ポイント

難度の高いクライミングに挑戦

コメント

初日は5人が参加し、①伊藤・山野昭組と②田口・山野美・横川組の2パーティーに分けた。

ウォーミングアップとして、まず①組は『観音ルート』を、②組は『地藏ルート』を登る。朝イチのクライミングとしては、ややハードだったなと反省しつつ、次は第一バンドから『T字クラック』を行き、ひき続いて『紅葉おろし』に挑戦!と思っていたが、取り付き地点を間違えて『紅葉おろし』の右にあるルートに入ってしまう、これは易しかった。

一休みして、今度はマルチピッチにトライ。①組は、八寸バンドが待ち構える『亀ルート』を伊藤さんがリード。伊藤さん自身は2度目の亀ルートとあって、余裕の表情を見せていた。

②組は『巨人ルート』に挑戦。3人ともこのルートは初体験とあって緊張感が漂う。A1の1ピッチ目は、田口さんがリード。アブミを使っても、かなり手ごわい感じだった。2ピッチ目は、私がリードするが出だしのトラバースからしてイヤな予感がする。その緊張感のせい、突然の便意。A0の連打でこのピッチをすぐに終了させ、急いで懸垂下降し藪の中に飛び込んだ(しゃがみ込んだ)。

二日目は伊藤・田口・横川の3人が参加。登ったルートは下記の通り。

- ・一般ルート中央
- ・十字クラック
- ・紅葉おろし(敗退)
- ・権兵衛チムニー
- ・リーダーピッチ

巨人ルートと紅葉おろしは、中途半端な形に終わってしまったので、また修行して、次回はキッチリと完登したい。

報告者 横川 秀樹

△△△△△△△△△△△△△△△△

講習山行

谷川岳・一ノ倉沢烏帽子沢奥壁・凹状岸壁

9/23(祝)

講習会のポイント

初めての一ノ倉であり、その独特の雰囲気を感じること。

参加者

伊藤幸雄・横川秀樹
新保司(講師)

計3名

感想

辺りは暗闇に包まれていた。9月23日、午後8時、聞こえるのはゴーツという沢の音だけ。ヘッドランプで足元を照らす。今日中に帰れるのか、それともビバークか・・・不安な思いに口数も少なくなる。懸垂下降の支点は・・・、見つかった。これで

何とか降りられる。一ノ倉出合の駐車場にようやく戻ってきた。出発してから15時間。「やった！帰ってきたぜ！」大声で叫ぶ。3人でガッチリと握手。体中の力が抜けていく。思えば長い一日だった・・・。

9月22日(月)に予定されていた一ノ倉の講習は、台風の影響で翌日に順延となった。私と伊藤さんは、その日の夜9時、新保講師の待つ土合駅へ集合。明日の登攀に備え、ギアのチェックを受ける。新保講師が不要と判断したものが、どんどん装備から外されていく。そして、持っていくガチャをギアラックに装着。明朝すぐに出発できる手はずを整え、一ノ倉出合の駐車場へと向かう。

当日。朝5時起床。周りには他のパーティーやアマチュアカメラマン達が、もう準備に入っている。我々はストレッチングをして5時半に出発。この時期、テールリッジまでのアプローチに雪渓は残っていない。アプローチには、踏み後がしっかりあったり、なかったり。ところどころ危ないところもあり、慎重に通過する。最後は、新保講師が残置用に持ってきた50mロープを張り、それを使ってテールリッジ末端へ懸垂でおりにいく。

テールリッジはⅢ級前後のゆるい傾斜の岩場。フラットソールのクライミングシューズに履き替え、ロープを出し、コンティニューアスとスタカットを使い分けて登っていくが、最初の取り付きでレンゼ状の部分をもたぐるのがイヤらしい。(他のパーティーはアプローチシューズのまま、ロープは出さずに登っていた)

8時半に衝立岩中央稜の基部に到着。ここで休憩をとってよいよ今日のルート、凹状岸壁の取り付きに着く。凹状岸壁は、ルートプレートでⅣ級下(またはⅢ級上)。南稜や中央稜よりも少しグレードが高いらしい。登るシステムは、新保さんがダブルロープでリードし、私と伊藤さんが後に続くというやり方だ。

1ピッチ目はいきなりトラバースから始まり、緊張感が否応なく高まる。2ピッチ目、3ピッチ目と進んでいくが、残置支点はそれほど多くないようだ。クライミングの難易度としては、それほど高くはないが、ここをリードするとなると相当なプレッシャーだろう。岩がもろいせいで、なお一層いやらしさを感じる。新保講師は一手ごとにホールドとなる岩

を叩いて、大丈夫かどうか確認しながら登っていく。4ピッチ目、5ピッチ目は、ルートが右へ曲がる箇所がありルート・ファインディングが要注意。クラックなどもあるのでカムデバイスもあったほうが安心だ。

最後、8ピッチ目を終わって衝立岩の上部に出た。午後2時前だ。少し休んで衝立岩北稜を下降する。懸垂で何ピッチ降りただろうか。最後は2度の空中懸垂で略奪点に着く。この時点で午後6時。日はとっぴりと暮れていた。

あとは衝立前沢を下降し、夜8時半に駐車場着。

長い長い一日、
精神的にクタクタになった一日、
ウ〇コを我慢しすぎて辛かった一日、
そして、初めての一の倉という充実の一日が終わった。

報告者 横川 秀樹



講習山行 奥秩父・滝川本流～水晶谷 9/27-28

参加者

小林英男 (講師)
向原侑希・渡部吉実 (CU)
横川秀樹・伊藤幸雄・本澤芳信・浅村和史・
南谷やすえ (本科)
水上宏一郎 (シニア)

計9名

コース・行程の概略

一日目: 豆焼沢出合 -> 曲沢出合 -> 金山沢出合
-> ビバークポイント
二日目: 一般レートまで登り下山

コースの核心・ポイント

- ・水量が多い中でのコースどり
- ・水量が多い沢での渡渉

コメント

道路わきのガードレールをまたぎ、かすかながら踏み跡と思えなくもない径を辿ってゆく。しかし、もともと急な下りだったコースがさらに険しくなり、ザイルの必要を感じるまでになった。隣の尾根に目をやると、より緩やかに見える。ガードレールまで登り返し、隣の尾根を下ることになった。新たに下った径はずっと径らしく、無事入渓することができた。

遡行を始めると、水量が多い。腰までなら幾度もつかり、その度ごとに押しよせてくる水の重量が体を圧迫する。初めのうちは高巻きもできたが、進むにつれ高巻きができない状況に陥ることもあり、一つ釜を越えたと次に控える釜の越え方を思案し、その釜を越えたらまた次の釜の前で渦巻く水面を見つめる、という繰り返しになった。いきおい、左岸から右岸へ、右岸から左岸への渡渉が続き、ザイルを使っただけの確保や二人で肩(腰)を組んでの渡渉となる。夏山サバイバルでの経験が役立った。今回を入れても三回しか沢登りをしていない僕はザイルワークなど見ている以上のことはできなかったが。

水量の多さは遡行速度の遅さに直結し、水晶谷などとても辿り着けないのではないかと思ひ始める。昼食をとった時点で曲沢合出ですら通過していなかった。周囲には鬱蒼と木が茂り、真上には青空がのぞくものの陽が射し込むことはほとんどない。寒くはないが決して暖かくもない中で厭戦気分が漂い始めたころ、ビバーク地点を探すことになった。案外簡単に見つかったビバーク地点はタープを縦に二つ並べてもまだ余るほどフラットな部分が広く、水面から数メートルは上がったところにあり、小さな枝沢が近くを流れていて水汲みも楽、という適地だった。

翌朝、今後の方針を話し合う。このまま遡行を続けるか、ここで取りやめ、山腹を一般道まで直登し下山するか。遡行しても前日と同じように釜また釜が繰り返され、水晶谷に着くことは時間的に無理だろう。直登は直登でやってみたい。しかし、いざ直登を始めるとまもなく赤テープが見つかり、ずっと道なき道を進んだわけではなかった。もちろん、小林講師には谷筋よりは尾根にまず登ることや、ガレ場ではできるだけ近接して縦隙になり、ジグザグに

進めば落石を起こしても被害を引き起こしにくいことなどいろいろと教えていただいた。

一般道を下り始めるとまもなくして林道となり、あっさりと豆焼橋東詰に着いてしまった。地図を見て分かっていたことだったが、たったこれだけしか遡行できなかったのか、という思いを新たにさせられてしまった。滝川本流・水晶谷のリトライ、やりたいと思っている人は多いことでしょう。

報告者 浅村 和史

△△△△△△△△△△△△△△

投稿

C-UPコラム『新人クライマーのひとりごと』

第11回

長谷川カップへの道

「あー、やっと着いた・・・」

2003年6月29日(日)の午前4時。雨の中、ボロボロに疲れきった男3人は、三頭山避難小屋に辿り着いて、そこにヘナヘナと座り込んだ。武蔵五日市駅を出発して、すでに18時間がたっていた。

山塾で毎年6月恒例となっているカモシカ山行。今年は、22期の私とT氏とY氏の3人でパーティーを組み「長谷川カップ日本山岳耐久レース」の71.5kmのコースをトレースしてみようということになった。しかし、まもなく40歳に手が届きそうな男3人には少々きつく、残念ながら35km地点の三頭山避難小屋で疲労困憊。ここで仮眠を取ったのち、翌朝は白旗を掲げて都民の森へと下山。道半ばにしてリタイアということになってしまった。

あれから4ヶ月。来る10月25日(土)の午後1時。長谷川カップの本番がスタートする。コースは、五日市会館→今熊神社→市道山分岐(795m)→醍醐丸→生藤山(990m)→土俵岳(1005m)→笹尾根→三頭山(1527m)→大岳山(1266m)→御岳神社(929m)→金比羅尾根→五日市会館という71.5kmの長丁場。これを24時間以内に完走しな

ければならない。

山塾からは、私が初出場で、シニアの水上さんが去年に続いての2回目、同人の松本さんは数回目の出場となる。

しかし、我ながら何でこんなバカげたレースに出るのかと考えることもない……。『自分の限界を知るため』とか『根性を付けるため』とかそれなりの理由はあるにはあるが、登山道を1000人以上が走るイベントであるからして、環境にとっては最悪で、自然破壊レースと言ってもよいだろう。そういう方面こうさい自然保護団体などから何故クレームが出ないのだろうか、不思議な気さえる。

けれども、そういうことを深く突き詰めて考えるのは、あまり得意ではないので、とりあえず「精一杯ガンバって完走を目指そう！」などという単純なことしか今は頭にない。

さて、この大会に向けた私の準備としては、7月末の剣岳早月尾根に始まり、8月以降、雨飾山（小谷温泉往復）、富士山（御殿場口往復）、硫黄岳（赤岳鉱泉往復）、金峰山（廻目平往復）などでトレイルランをしてきた。（早月尾根は歩き）

そして、10月に入ってから、長谷川カップのコース後半部(38km 地点へゴール)を5日に、前半部(スタートへ30km 地点)を13日に試走した。

一応、やれるだけのことはやってきたので、ヒザと股関節の痛みが出なければ、18時間ぐらいでとりあえず完走までできると思っているが、果たしてそううまく行くかどうか……。

一連のトレーニング中に、買って間もないファイブテンの軽量シューズ「アクセス」を潰してしまって別の靴を新調したし、ヘッドランプとザックとウエストバッグを軽量なもので買い揃えるなど、それなりの投資をして装備は万全のはず。あとは精神力、そして皆さんの応援だけ……。でしょうか。

まっ、とにかく、頑張ります。

なんだかコラムの場を借りた決意表明みたいになってしまいました。

長谷川カップのリアルタイム速報は、東京都山岳連盟のホームページ(<http://togakuren.com/>)でご覧になれます。くどいようですが、みなさん応援よろしくをお願いします。

(秀)

編集局から

9月も雨などの影響で中止になった講習などもあったようです。秩父の深く・手強い沢も困難だったようです。私は個人的に9月の頭に北海道の十勝岳～大雪山を歩いてきましたが、天気も良く、例年より1週間ほど早く紅葉も進んでいたため、なかなかの眺めを楽しめました。トムラウシ山でも南沼キャンプ場にテント泊して、早朝早々に登ったので快晴の絶好の展望でした。8月の夏合宿は台風の影響で中止になってしまいましたが、その代わり今年は北海道の山を楽しめたので私的には満足でした。そんな感じで、9月頭は暫く家を留守にしていたのですが、みなさまのご協力もあり10月号発行できました。今後も自主山行された方は、ぜひ山行報告原稿をお願いいたします。山塾のホームページ（山行報告入力フォーム）にて山行報告を入力し送信して頂くと、私にメールの形式で自動的に送信される仕組みになっております。また、報告文章掲載が妨げている場合にはご指摘ください。次号に掲載するようにいたします。

アドレス

無名山塾

<http://www.sanjc.com>

Phone 03-3941-3481

Fax 03-3941-3482